

平成25年6月13日

## 平成25年度生徒指導研究協議会に参加して

明和小学校

教頭 佐々木 朗

### 1. 日時場所

平成25年6月13日(木)

檜山合同庁舎

### 2. 内容

(1)説明「北海道の生徒指導の現状と課題」

北海道教育庁檜山教育局高等学校教育指導  
班指導主事 S先生

(2)全体会1講演「青少年の心理と成長につ  
いて」

北海道教育大学函館校講師 H先生

(3)全体会2シンポジウム「子どもを健やか  
に育てるための学校、地域社会、関係機関  
等との実効性のある連携について」

北海道教育庁檜山教育局高等学校教育指導  
班指導主事 T先生、T先生(瀬棚小)、O  
先生(瀬棚中)、K先生(檜山北高)、Hさ  
ん(瀬棚小P)、Y先生(せたな町教委)

### 3. 内容のまとめ

(1)説明「北海道の生徒指導の現状と課題」

・生徒指導上の諸問題について一層の改善  
が必要である。内容として、①いじめ問題  
に対する取組、②相談の校内体制、③見守  
り活動事業

・本年度の道の取り組みの重点 ①いじめ  
問題対策チームを中心に、各種調査の分析  
に基づく対応策の検討など、いじめの問題  
に対する取組を推進する。②児童生徒の悩  
みに共感しながら相談に応ずることができ

る校内体制づくりや、学校の教育活動全体  
を通じた命を大切にする指導を推進する。

・生徒指導上の諸問題①暴力行為H23年度  
～1634件(前年度より177件減)②いじめ  
H23年度～3261件(前年度より約1400件  
減)③不登校H23年4001人(前年度より  
約100名減)不登校では、小学校1年生か  
ら中学校3年生まで学年が上がるごとに増  
加している。中学校に入ったとたん激増す  
る。④中途退学H23年度1735名(そのう  
ち半数が高校1年で退学している)理由と  
しては、一位学校生活・学業不適應、二位  
進路変更となっている。



・学校としての対応①自他の生命を尊重す  
る指導、②小さな心のサインを見逃さない、  
③学校・家庭・地域社会が連携した指導の  
充実が必要である。

・児童虐待については、児童生徒の心身に  
重大な悪影響を与えるので、疑いや発見が  
あれば、関係機関に連絡相談すること。

(2)全体会1講演「青少年の心理と成長につ

いて」

・学校心理学では、一次的援助サービス（全ての児童生徒に対する予防的・開発的援助）、二次的援助サービス（苦戦し始めた一部の児童生徒に対する適時の援助）、三次的援助サービス（現在、苦戦している児童生徒に対する個別の援助）



・病気であれば、早期発見、装置治療であるが、児童への対応については、早期発見と適時の援助でちょっと違う。様子を見て、自力解決させる場面も時には必要だから、適時な援助である。

・子どもを見ていくには、①学習面、②社会面、③健康面、④進路面、⑤心理面から見る。

・またそれぞれを、①良いところ、②気になるところ、③今までやってみたこととその結果ということで振り返ってみる。

・先生としては、「困った子」としてみるのではなく、子どもの立場に立って「困っている子」という見方をしてみよう。

・思春期の子どもの感情を把握した指導が大切①別に…→心配しないで。②「……」（だまっている）→自分で考えさせて。③「うるさい!」「あっち行って!」→私を信じて。など

(3)全体会2シンポジウム「子どもを健やかに育てるための学校、地域社会、関係機関等との実効性のある連携について」



・T先生～①保護者を中心とした防犯マップの作成、②公開パトロール、③学校と連携した行事（BG、川に親しむ行事など）

・O先生～①小中学校の連携（参観日に行ったり来たり、学校通信のやりとり、英語の時間に中学校の先生が乗り入れ授業、中学校への一日体験入部）



・K先生～①中学校との情報交換、②支部ごとの懇談会

・Hさん～①おやじの会（交通安全看板、自然観察、つり大会、運動会の協力、昔遊び、スキーの基本指導、飲み会）

・Y先生～生徒指導連絡協議会

(4)グループ協議

K先生（厚沢部町教委）～①人材バンク、

(小学校での伝統遊び、餅つき、スキー指導、川上り)、②就学時指導、③金銭面での援助(学習用DS)

Hさん(瀬棚小P)～おやじの会、活動を楽しむことが大切

N校長先生(大成中)～子どもを大切にす  
る地域である。久遠神楽、鮭、ほっけの燻  
製するめなど地域人材の活用

N先生(奥尻高校)～スキューバダイビング  
など

#### (5)閉会式

テーマである実効性のある連携とは、情報  
連携から行動連携になるように、①自然体  
験、奉仕活動、体験活動などを実施し、社  
会性、人間関係調整力を付ける。②他校の  
生徒と交流する。教師自身も。

#### 4. 感想

今回のシンポジウムのテーマは「こども  
を健やかに育てる為の学校、家庭、地域社  
会、関係機関などとの実効性のある連携に  
ついて」である。

私はこの「実効性のある」というところ  
が大きなポイントだと考える。シンポジウ  
ムでも、グループ協議でも他の班の発表で  
も、いろんな連携した事業が紹介された。  
物事をやるには、結果を出すことが求めら  
れる。やること自体が目的になってはいけ  
ない。毎年やっているから今年もやるでは  
だめなのである。何をねらってやるのかと  
いう目的を明確にして、その目的を達成さ  
せるために今やっていることで成果が出て  
いるのか(もちろんでているならいいのだ  
が)検証し、次の年のプランに生かしてい  
くことが大切である。

それと、地域と連携するには、まず、教

員がその地域の人になることが大切である。  
できれば、教員は学校の近くに住んでいた  
方がいい。地域の行事に参加して、地域の  
店で買い物して、地域の人とおしゃべりし  
て。通いでも、そこは、心して地域行事に  
参加する教員であってほしいと思う。

どんなことにも通じるといつも思うのだ  
が、「したようにされる」ということである。  
学校と、家庭、地域社会、関係機関との連  
携でも、こっちから積極的にアプローチす  
ると相手も誠意を持って答えてくれるし、  
こちら側の心が義務的に仕事をしていると  
それが相手に伝わって、相手も義務的に連  
携してはくれるが、結局おもしろくなく終  
わってしまうことになる。だから、教頭と  
して、常に熱いハートを持って、コミュニ  
ケーションを大切に学校と地域の連携をす  
るように心がけている。

校長・教頭は学校のPRマンであると私  
は思っている。明和小学校のいいところを  
どんどん地域に発信していくのが重要な仕  
事であるし、地域の声に積極的に耳を傾け  
ると共に、地域の素晴らしい素材や人材を  
子どもたちの成長のために生かしていくこ  
とも大切な仕事である。

連携事業について、やる人がおもしろく  
なければ、子どもたちがおもしろいはずが  
ないと思う。私はいつも頭の中であれ  
もやろう、これもやろうと思う方で、いつ  
も自分を忙しくしている方である。でも自  
分でやりたいって思ってやると、めちゃく  
ちゃ忙しくてもとっても楽しいのである。  
そういう行事では、子どもたちの成長にも  
出会えるし、自分も成長していると感じる。

子どもは学校だけでは育たない。学校で  
は組織的に、しっかりと子どもを育てるこ

とは当たり前として、これからも保護者や  
地域社会、関係機関との連携を大切に、健

全な子どもたちを育てるこの仕事に邁進し  
ていきたい。